

認知症早期発見のための地域ネットワークづくり

座長 高嶋 隼 二

ランチオンセミナー1は、長野県安曇野市ミサトピア小倉病院の岸川雄介先生をお招きして、「認知症早期発見のための地域ネットワークづくりー茨木市における試みー」をご講演いただきました。先生は、前任地である茨木市の恒昭会藍野病院在職中から地域における認知症患者の診療・介護などに関わるスタッフのネットワーク作りの中心として現在も精力的に取り組んでおられ、以下の内容を話されました。

認知症の多くは、根本的治療が不可能であるため、より早い段階で発見し、生活場面で現れる症状をコントロールすることにより、患者のQOLを改善させることが重要であります。早期発見のためには、専門医療機関での認知機能評価よりも、生活場面での状態の把握が大切と思われます。そのために、専門医療機関が診断して、かかりつけ医や地域福祉・介護スタッフに引き継いでいく従来型のシステムでなく、より生活場面に近い地域

福祉・介護スタッフやかかりつけ医が中心となり、専門医療機関がそれをサポートするネットワークの構築がより有用と思われます。かかりつけ医の診断・治療をサポートするため、スウェーデンで開発された認知症診療支援システム（DMSS）の日本語改良版を作成され活用されており、福祉・介護スタッフ向けには、独自の「認知症・認知症疾患簡易チェックシート」や「認知症重症度分類表」などがあります。今後、患者とその家族、福祉・介護スタッフ、かかりつけ医、認知症専門医療機関を結ぶネットワークだけでなく行政との連携も重要であると強調されました。

岸川先生のお話を踏まえて、当地区でも、「もの忘れ（認知症）相談医」、「認知症診断医」相互の連携だけでなく、地域の福祉・介護スタッフや行政など多職種との「顔の見える連携づくり」が進められております。